

1961年 大会記録

国際

◇米国西部沿岸選手権（3月11日、米国・オークランド）

《フリースタイル》▼フライ級 宮崎不二男（日大）＝優勝、八田忠朗（神奈川・慶応高）、▼バンタム級 今泉雄策（中大）＝優勝、中西一郎（慶大）、岡田収司（早大）、▼フェザー級 岩室好純（明大）、橋本精二（慶大）、最首富夫（慶大）、▼ライト級 阿久津英紀（明大）、興石清晴（法大）、▼ウエルター級 柴田勝夫（日体大）、森本宗作（立大）、中島治郎（早大）、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）

◇全米選手権（4月6日、米国・トレド）

《フリースタイル》▼フライ級 宮崎不二男（日大）、八田忠朗（神奈川・慶応高）、▼バンタム級 今泉雄策（中大）＝優勝、中西一郎（慶大）、岡田収司（早大）、▼フェザー級 岩室好純（明大）、橋本精二（慶大）、最首富夫（慶大）、▼ライト級 阿久津英紀（明大）、興石清晴（法大）＝2位、▼ウエルター級 柴田勝夫（日体大）、森本宗作（立大）、中島治郎（早大）、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）

《グレコローマン》▼バンタム級 橋本精二（慶大）＝2位、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）＝2位

◇カナダ選手権（4月14～16日、カナダ・バンクーバー）

《フリースタイル》▼フライ級 宮崎不二男（日大）、八田忠朗（神奈川・慶応高）、▼バンタム級 今泉雄策（中大）＝優勝、中西一郎（慶大）、岡田収司（早大）、▼フェザー級 岩室好純（明大）＝優勝、橋本精二（慶大）、最首富夫（慶大）、▼ライト級 阿久津英紀（明大）、興石清晴（法大）、▼ウエルター級 森本宗作（立大）、中島治郎（早大）＝優勝、▼ミドル級 柴田勝夫（日体大）＝優勝、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）

◇世界選手権（6月2～7日、神奈川・慶大）

《フリースタイル》▼フライ級 松原正之（日大OB）＝5位、▼バンタム級 風間貞勝（中大OB）＝4位、▼フェザー級 佐藤多美治（中大）＝4位、▼ライト級 阿部一男（明大OB）＝4位、▼ウエルター級 兼子隆（中大OB）＝3位、▼ミドル級 石川忠男（日大OB）＝二失、▼ライトヘビー級 川野俊一（法大OB）＝6位、▼ヘビー級 大塚勇（法大）＝二失

《グレコローマン》▼ライト級 花原勉（日体大）＝6位、▼バンタム級 市口政光（関大）＝二失、▼フェザー級 村野力（中大）＝5位、▼ライト級 沢内敏之（専大）＝四失、▼ウェルター級 佐々木洋一（明大）＝5位、▼ミドル級 風間貞夫（明大）＝二失、▼ライトヘビー級 丸山彰治（明大OB）＝6位、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）＝二失

国内

◇世界選手権第2次選考会（3月24～26日、東京・青山レスリング会館）

※各階級の上位選手を選抜（成績省略）

◇東日本学生春季新人戦（4月22～23日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 山崎勝之（日大）、▼バンタム級 斉藤嘉章（中大）、▼フェザー級 阿部治男（日大）、▼ライト級 堀内岩雄（日大）、▼ウェルター級 程原健（明大）、▼ミドル級 田代俊郎（中大）、▼ライトヘビー級 浦田昇（中大）

※フリースタイルのみ

◇世界選手権最終選考会（4月28～30日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 松原正之（日大OB）、▼バンタム級 風間貞勝（中大OB）、▼フェザー級 渡辺長武（中大）、▼ライト級 相沢（中大）、▼ウェルター級 中島（早大）、▼ミドル級 石川忠男（日大OB）、▼ライトヘビー級 川野俊一（法大OB）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 花原勉（日体大）、▼バンタム級 市口政光（関大）、▼フェザー級 岩室好純（明大）、▼ライト級 阿久津英紀（明大）、▼ウェルター級 佐々木洋一（明大）、▼ミドル級 須藤（立大）

◇全国高校選抜大会（5月3日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 新潟・新潟商（2年ぶり4回目）、[2] 新潟・北越商、[3] 群馬・館林、宮城・仙台育英

◇東日本学生リーグ戦（5月14日～6月24日、東京・青山レスリング会館）

《順位》[1] 中大（4年ぶり7回目）、[2] 明大、[3] 日大、[] 専大、[5] 早大、[6] 立大、[7] 法大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月17～19日、大阪・阿倍野体育館）

《順位》[1] 関大（3季連続13度目）、[2] 関学大、[3] 近大、[4] 名商大、[5] 同志社大、[6] 名城大

◇インターハイ（8月11～13日、山口・田布施中）

《学校対抗戦》[1] 群馬・館林（7年ぶり2度目）、[2] 新潟・新潟商、[3] 東京・三商、新潟・新潟明訓

《個人戦優勝者》▼52kg級 平野万司（富山・滑川）、▼55kg級 酒井三郎（群馬・館林）、▼58kg級 水井嗣興（東京・東京実）、▼61kg級 本川信之（東京・東京実）、▼65kg級 鈴木政重（秋田・秋田工）、▼69kg級 板橋勝治（宮城・仙台育英）、▼69kg以上級 野島憲三（新潟・新潟商）

◇全日本社会人選手権（8月27日、東京・青山レスリング会館）

《実業団対抗》[1] 本間組、[2] 帝国石油秋田、[3] 三共ラジエーター

《優勝者》▼フライ級 原田紀之（自衛隊）、▼バンタム級 山平義雄（清水食品）、▼フェザー級 佐藤美喜男（小玉合名）、▼ライト級 北清治（本間組）、▼ウェルター級 阿部一男（丸大用紙）、▼ミドル級 石倉俊太（日本カーバイト）、▼ライトヘビー級 川野俊一（雪印物産）、▼ヘビー級 妹尾武二郎（帝石秋田）

◇全日本選手権＝フリースタイル（9月1～3日、岐阜・大垣市スポーツセンター）

《優勝者》▼フライ級 今泉雄策（中大）、▼バンタム級 風間貞勝（中大OB）、▼フェザー級 渡辺長武（中大）、▼ライト級 阿部一男（明大OB）、▼ウェルター級 兼子隆（中大OB）、▼ミドル級 石川忠男（日大OB）、▼ライトヘビー級 川野俊一（法大OB）、▼ヘビー級 杉山恒治（明大）

◇全日本選手権＝グレコローマン（9月30日～10月1日、東京・青山レスリング会館）

《優勝者》▼フライ級 梶川雅史（明大）、▼バンタム級 市口政光（関大）、▼フェザー級 藤田徳明（日体大）、▼ライト級 沢内敏行（専大）、▼ウェルター級 佐々木洋一（明大）、▼ミドル級 風間貞夫（明大）、▼ライトヘビー級 浦田昇（中大）、▼ヘビー級 稲葉泰久（日大）

◇国体（10月9～10日、秋田・五城目町）

《一般優勝者》▼フライ級 梶川雅史（岡山）、▼バンタム級 利光紀（神奈川）、▼フェザー級 藤田嘉雄（新潟）、▼ライト級 堀内岩雄（富山）、▼ウェルター級 阿部一男（新潟）、▼ミドル級 川口泰三（埼玉）、▼ライトヘビー級 川野俊一（神奈川）、▼ヘ

ビー級 大塚勇 (神奈川)

《高校優勝者》▼52kg級 和田千明 (群馬)、▼55kg級 池田博志 (山口)、▼58kg級 寺島裕三 (東京)、▼61kg級 鈴木政重 (秋田)、▼65kg級 茂木哲夫 (群馬)、▼69kg級 石井清 (新潟)、▼69kg以上級 野島憲三 (新潟)

◇全日本学生選手権 (10月21～23日、東京・青山レスリング会館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 梶川雅史 (明大)、▼バンタム級 金子正明 (専大)、▼フェザー級 渡辺長武 (中大)、▼ライト級 川口恭三 (中大)、▼ウエルター級 佐々木洋一 (明大)、▼ミドル級 国井安雄 (早大)、▼ライトヘビー級 浦田昇 (中大)
※フリースタイルのみ

◇西日本学生秋季リーグ戦 (10月27～29日、関学大)

《順位》[1] 関大 (4季連続14度目)、[2] 関学大、[3] 近大、[4] 同志社大、[5] 名商大、[6] 名城大

◇東日本学生王座決定戦 (10月29～30日、東京・青山レスリング会館) =決勝記録

中大○ [8-3] ●明大
※中大は5年連続8度目の優勝

◇第1回関東学生対抗グレコローマン選手権 (11月11日、東京・青山レスリング会館)

=決勝成績
明大○ [8-1] ●日大

◇東日本学生秋季新人戦 (11月18～19日、東京・青山レスリング会館)

《優勝者》▼フライ級 高橋 (中大)、▼バンタム級 上武洋次郎 (早大)、▼フェザー級 斉藤嘉章 (中大)、▼ライト級 堀川康雄 (法大)、▼ウエルター級 貫井成男 (早大)、▼ミドル級 程原健 (明大)、▼ライトヘビー級 田代俊郎 (中大)
※フリースタイルのみ

◇全日本学生王座決定戦 (11月23日、大阪・関大)

中大○ [10-1] ●関大
※中大は5年連続8度目の優勝